

公園の風景

= 私は待っているのです =



淡水池で佇むアオサギ

私は何をしているのかお分かりですか。秋の陽を浴びてじっと浮島に佇むわたしの姿は、観察ホールから見ておられるお客さんたちには観賞用に置かれた塑像のようにきりっとして、凛々しく見えるかもしれませんが、私はさっきからずうっと待っているのです。何をって？ 魚ですよ。私は今とても空腹なのです。魚が近寄って来たら間髪入れず襲いかかれるように、苛立つ心と空きっ腹を宥めながらじっと待っているのです。皆さんには見えないでしょうが、わたしの目はランランと光を放ち、水中

を油断なく見回しているのです。おバカな魚が私に食べられようと近づいて来るまで、私はここで待ち続ける積もりです。早く美味しいご馳走にあり付きたいものだなあ。私にも限界がありますから、あまり長く待たされるようなら「待ち」をやめて、自ら行動を起こすと思いますが、今のところは待ちます。

まあ皆さんもう少し私の美しい立ち姿をご観賞ください。

= 旅鳥の休憩地 =

鳥の季節的移動を「渡り」といいますが、渡りの距離が極めて長く、春秋の渡りの途中休憩地として立ち寄る鳥たちのことを「旅鳥」といいます。公園に飛来するシギやチドリは、そのほとんどの種が、夏はロシア北部のツンドラ地帯やアラスカ北部などで繁殖し、冬は東南アジアからオーストラリア、ニュージーランドにかけての地域で越冬する旅鳥です。ひととき公園の干潟でせっせと餌を食べ、やがて体力と鋭気を補充して南に旅立っていきます。彼らが来春、またこの公園に立ち寄ってくれるとうれしいですね。

